

Book Review



デンタルハイジーン別冊 長期メンテナンス症例から考える！ 経過観察の意味 歯科衛生士は患者さんとどのように関わってきたのか

鷹岡竜一・品田和美・村上恵子 編著



Reviewer

北川原 健 Takeshi Kitagawara
(長野県・北川原歯科医院)

AB判, 120頁
定価 3,360円
(本体 3,200円+税 5%)
医歯薬出版刊



歯科衛生士が読者対象の分野に「経過」をキーワードとした本が出てきたことは画期的なことだ。「そりゃあ、このメンバーが揃えば、できるでしょう…」というのも正直な感想。編者による執筆者の人选はすばらしい…。

本書からは「病態の変化」もさることながら、「患者さんとの関わり」を評価していくには「時間」という軸が必要であることへの思いが一貫して読み取れる。経験の浅い歯科医師や歯科衛生士には「時間」という要素が欠如しているわけであるから、「変化」はこのような先達の症例経過を見ることによってしか知り得ない。その意味で、ここに掲載されている10人のベテラン歯科衛生士の長期経過した症例報告は何物にも代え難いものであるし、それをするのは臨床経験が長いもののあるべき姿だと考える。

私自身、歯科医師として本書に学ぶべき点が多々あった。“歯周病という病気”“それに罹患している人”への対応の仕方に関する多くのヒントが

りばめられているが、症例報告の見事にだけ目を向けるのではなく、その裏に隠れた歯科衛生士としての「人柄」、さらにその背後にある院長の診療姿勢やサポートにまで思いをめぐらせてほしい。

ここで、一つだけ違和感があった点を述べさせていただく。

本書に症例を載せている歯科衛生士の方々は、同じ診療体系の中に長くいて、一人の患者さんを長期にわたって拝見してきた＆できた方々が大半のようである。著者の一人である山岸貴美恵氏のまとめにあるように、「患者さんにとって一番よい歯科衛生士とは、一つの医院に長く勤務し自分を知っていてくれる人…」確かに、そのとおりである。

しかし、いつもそう思うようにはいかないものである。だから院長として私は、「歯科衛生士が退職し担当が変わっても患者さんが安心して通える歯科医院」を作り上げることを目指してきた。歯科衛生士には「ずっといてほ

しい」とは思っていないものの、「ずっといてくれるもの…」と思わないことにしている。本書で症例発表されているような歯科衛生士さんと仕事ができたらいいだろうな…と誰しも思うことであろう。しかし、今まで私の診療室に勤務してくれた歯科衛生士達はそこまで「優秀」な人材ばかりではなかった。それでも、普通の歯科衛生士でも「患者さんの健康維持に役立つだけの能力」を持っている。そうでなければ当院に通ってくる患者さんは不幸である。

本書の中で何人の方が言及しているように、このように長く経過観察できるのは「医院の総合力」の賜物だ。さらにいえば、院長の能力が反映される。歯科衛生士が変わっても、患者さんへのサービスの質が変わらないシステムの構築は、「長期メンテナンス」には欠かせないもの。欲を言えばその点に触れてほしかった…。

本書は歯科衛生士の方へもとより、若い歯科医師には必読の書である。